

# 春です。参考図書でレパートリーをひろげよう

伊藤 陽子

るので、ご注意ください。

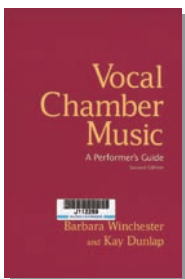
本文は、作曲者のアルファベット順で、曲名／作品番号／作詞者出版情報、編成の3項目のみ。編成は略語で、S.c.p.v.c (ソプラノ、クラリネット、ピアノ、チェロ)、T.r.p.c (テノール2、オーボエ、打楽器、チェロ) という風に表示されます。

グラムが6本組んであります。アメリカン・ヴォーカルアーツ・クインテットを率いてきた著者が語る、オーディションでの選考方法、プログラムの組み立て方なども、一読の価値がありそうです。

## 管楽器・室内楽 解説付きガイド

みなさん、曲探しにはまずOPACですね。でもたとえ、伴奏がフルートとピアノの歌曲、ないかな」とか、「アンサンブルピアノ・コース目指してレパートリーを増やしたい」とか、「わたしの声質にピッタリのアリア、ないかしら」というような場合、どうでしょう。作曲家や曲名でなく、編成や声質・声部などから曲を探すときは、OPACの前に見ておくとしても役に立つ本があります。そういう本をこれから紹介します。参考図書を使ってレパートリーを上手にひろげましょう。

## 声楽・室内楽…演奏者のためのガイド



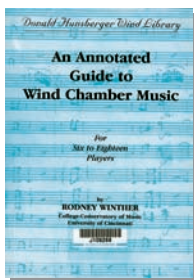
X-080 W  
Vocal Chamber Music :  
A Performer's Guide 2. ed./ B.  
Winchester and K. Dunlap. 2008

OPACでいわゆる室内楽伴奏の音楽曲を探そうとすると、結構たいへんです。そんな時、この本が力を発揮します。場所は、参考図書室右手奥のX-080。落ち着いた紅色の表紙で、すぐ見つかります。声1+楽器1 (鍵盤楽器、ギターを除く) から、声12+楽器12の組み合わせまで、つまり器楽アンサンブル付き歌曲から12重唱まで、830人の作曲家の曲が2000曲以上並んでいます (2重唱以上は、無伴奏やピアノ伴奏作品も含む)。作曲年代は、1650年から2005年。ブラームスやシューマンなどのよく知られた作品はもとより、できるだけ多く作曲家の作品を広く集めてあります。歌詞は、英・仏・独・イタリア・スペイン・ラテン語が主ですが、米国の本のため、英語の現代曲が目につきます。基本的に編曲ものと古い時代のマドリガルなどは含まれません (理由は、数が多すぎる、曲集で見つけやすいなど)。大きな作品の一部 (バッハのカンタータのアリアなど) も除外されています。

曲を探すには、巻末の編成別索引を使います。声部 (SmezATBBarb順)、楽器 (アルファベット順) の組み合わせが略語で並び、すぐ後ろに作曲家名が書いてあります。演奏したい編成から作曲者を確認して、本文で必要な情報を読むというわけです。専門家向けの本なので、解説などはありませんが、ていねいに索引をたどっていけば、めずらしいアンサンブルや、探している組み合わせにピッタリの曲が見つかるはず。言語別、時代別の索引が付いていないのが残念です。

器楽アンサンブルは、件名を使うとOPACでも幅広く探せますが、「図書館に入っている楽譜は全部見た」という人のために、2冊紹介します。

最初は、五線譜模様の入った水色のやや大き目の本です。6人から18人まで管楽器アンサンブル曲



X-076e W  
An Annotated Guide to Wind Chamber Music : for six to eighteen players / Rodney Winther. 2004

が、演奏人数別にリストアップされています。その数、600以上。作曲家、曲名、作曲年、出版社に加えて、演奏時間、難易度、ディスクグラフィックが付いています。

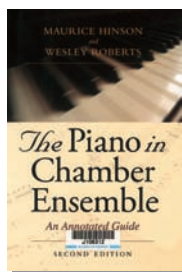
1曲ずつ付いている解説も充実しています。本文が編成別なので、冒頭5ページから26ページに作曲家順の曲名一覧(楽器編成略号付)があります。この種の本は、索引が使いやすい鍵になります。本書は巻末に、作曲家・曲名を一覧しながらページを探す索引と、演奏人数別に詳しい楽器編成を確認しながらページを探す索引と2つ付いているので、かなり便利です。

著者ロドニー・ウインザーは、シンシナティー大学音楽院で長らく管楽器アンサンブルの指導者を務め、そこから本書が生まれました。古今の名曲を、さまざまな時代、編成、国から選び、可能な限り著者自身が演奏、または録音を聞いたものに限る。これが選択基準です。管楽器が中心ですが、打楽器、弦楽器を含むアンサンブルも含まれています。独唱、合唱付きのものは、最後にまとめてあります。

興味深いのが、冒頭の(著者)選ぶトップ101曲リスト。著者一押し曲なら、図書館にも入

っているに違いないと調べてみたら、所蔵していないものもけっこう見つかってしまいました。今後の選書の参考にしていきたいと思います。

### ピアノを含む室内アンサンブル… 解説付きガイド



X-074 H  
The Piano in Chamber Ensemble: An Annotated Guide / Maurice Hinson and Wesley Roberts. 2006.

こちらは、ピアノとヴァイオリンなどの2重奏から8重奏まで、すべてピアノを含む室内楽曲をリストアップして、1600人以上の作曲家による3200曲を収載しています。作りは、先の《管楽器・室内楽》に似ています。本文は楽器数別に編まれ、項目は作曲家、曲名、出版情報、短い解説と難易度。巻末にピアノ2台以上の曲、女性作曲家の曲のリストがあり、作曲家索引が付いています。原則として編曲は含まず、一部、絶版のものも掲載されています。

### オペラアリア・ レパートリー・ガイド

No. 15	Fach: soprano
Voice: soprano	Librettist: Lorenz
Aria Title: "In uomini, in soldati" (Despina)	Aria Duration: 1:10
Opera Title: Così fan tutte	Tessitura: F4 to F5
Composer: Wolfgang Amadeus Mozart	
(1756-1791)	
Historical Style: Classical (1750)	
Range: C4 to A6	
Position: Act I, scene 3	
Setting: The living room of Dorabella and Ferdinando, 18th century	
After Dorabella declares that because of her grief, Ferdinando is gone, Despina tells her mistresses that she has especially soldiers, to be faithful and stable. She says, "as creatures that use women for pleasure and..."	

X-081 C  
Guide to the Aria Repertoire / Mark Ross Clark. 2006

数あるオペラ・アリアから、ソプラノ、メゾ(アルト)、テノール、バリトン・バス用とそれぞれ100曲ずつ選んで詳しく紹介した本です。本書では、声部をさらに細かい声質・音色(Timbre)に分けています。たとえばソプラノは、リリコ・コロラトゥーラ、スーパーレット、スピント、ドラマティックなど全部で7分類。本書の目的が、現在の自分の声質に最もふさわしいアリアを選びながら、上手にレパートリーをひろげていく手助けをすることにあるからです。解説は、アリア1つにほぼ1ページと充実しています。声部、声質、アリア名、オペラ名、作曲者、リブレット、時代様式、演奏時間、音域とテシトゥーラ(最高音と最低音を除く主音域)の下に、

幕・場、舞台の様子、役柄とアリアの内容、必要とされるテクニクなどが続き、最後にリコルディ、シャーマー等のヴォーカルスコアのページまで書いてあります。

声楽家を目指す若い人向きに、できるだけいろいろな種類のアリアを選んだと、序文にあります。アリア406点のうち、約半数がイタリア語。他は、英語90点、仏語64点、独語53点、他にロシア語若干などです。インディアナ大学出版の本なので、比較的英語のアリアが目立ち、その多くは20世紀アメリカの作品です。索引は充実していて、アリア名、オペラ名、言語、時代様式から探すことができます(アリア番号が通し番号でないため、やや使いにくい)。序文は非常に実践的で、オーディションを受ける際の注意、上手な選曲方法など、辞書をひきながらでも読んで損はなさそうです。

演奏したい曲が見つかったら、図書館に入っているかどうか、OPACで探してください。アメリカの出版物のため、タイトルの書き方など、当館と異なることもあります。検索のやり方がわかりにくい時は、カウンターでおたずねください。